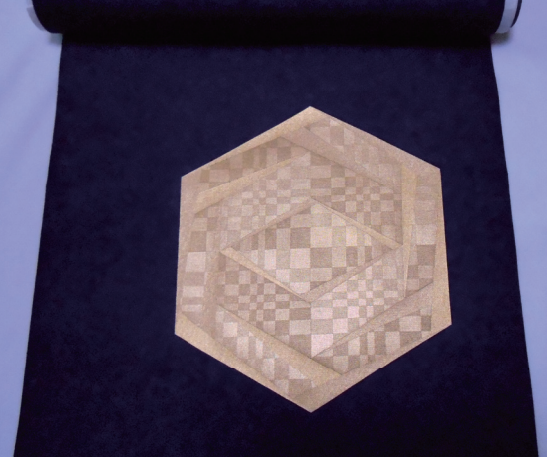


「帯 亀甲」 本金箔で紋様を描いた染め帯。金箔を生地に接着させるために使う糊(樹脂)の濃度を濃くしたり薄くしたりすることで金箔の輝き具合に差や変化が生じます。その光沢の差や濃度による金色の違いを生かして幾何学的な亀甲紋様を現代的にアレンジしました。



「ガラス皿 月に波」 ガラスの加工職人とのコラボレーションで誕生した飾り皿で、金箔で紋様をほどこしています。正絹生地にプラチナ箔の月、胡粉で波頭、波しぶきを鮑貝の螺鈿で描いた作品。地の細かい割れ目は金箔をひび割れのように施す技術で、割れ方がその度違いますので、同じ仕上がりの作品はありません。



「長財布 ブロック」 革小物を製作する職人とのコラボレーションで誕生した長財布。市松の地紋の正絹の織り生地に金と銀の箔、そして顔料の墨で加工した生地を革を切り抜いて生地を嵌めこむ「インレイ加工」をほどこしたもの。内装は表地と同じ生地で本金貼りでです。



上仲 昭浩

1988年元橋宏太郎師に師事。1995年家業である呉服金箔加工「二鶴工芸」入社。1998年「京都府工芸技術コンクール 帯 裂取金唐革」入選。2003年「京展 着物 満天」入選。2006年「京都デザイン優品 ショルダーバッグ」入選。2009年「京もの認定工芸士」認定。他、受賞あり。

〒601-8306
京都市南区吉祥院宮ノ西町3
二鶴工芸
TEL&FAX.075-314-7579
HP <http://blog.goo.ne.jp/hudurukougei>
Eメール qqsk7q8d@wine.ocn.ne.jp

桃山・江戸時代に確立された金彩工芸は帯や着物に金箔を施す技術。金彩工芸の魅力は、ほどこされた金箔紋様が光線や見る人の角度によって紋様が立体的に浮かび上がる。この金箔の特徴と不思議な作用を存分に生かせるデザインを心がけ、シンプルながら神秘的な作品づくりを心がけています。着物や帯など本業の呉服物だけでなく、異分野の職人たちとのコラボレーションによって、インテリア、バッグなどの実用品にもその技を生かした作品をつくっています。

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術を有した意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。

光によって幾様にも輝く
金箔の可能性を探る

京もの認定工芸士 第26号



うえなか
あきひろ
上仲 昭浩